



止まらない環境破壊と食の安全

今日、全世界的な労働者階級の闘争課題は、「貧困と格差の拡大」です。世界の数人の「富豪」と「35億人とも言われる貧困層」の資産が同じと言われています。それと共に全球的に人類の生存問題が横たわっています。一つは、環境問題です。多国籍資本による環境破壊の進行を、ナオミ・クラインは著書『これがすべてを変える』の中で警告、告発しています。ナオミ・クラインが強調しているのは資源獲得を目的とした環境破壊です。それが、現地住民の「食・住」を奪っていることだと、彼らによる反抗と反対運動の連携を提起しています。忘れてならないのは、それら環境、自然破壊が招く影響は、現地住民だけの問題ではない事です。圧倒的多数を占める全世界の労働者の生存権を犯すものだからです。日本

国内問題の、福島第一原発大爆発もその一つであり、**辺野古新基地建設による海洋破壊もそうだと考えます。**

二つは、「食の安全」があります。巨大農業資本モンサントによる種子の世界的支配です。そしてアメリカの巨大農業資本は遺伝子組み換え食品で世界の台所の支配を目指しています。それらの中心に米国多国籍資本の市場支配があります。多国籍資本の利潤追求が、今後ますます狂暴化すると考えられます。

環境破壊問題でのナオミ・クラインの問題提起は正しい一面、労働者階級の共同した闘い、階級の視点が足りないことは少し残念です。環境破壊問題、食の安全と二つの問題解決は、全世界的な労働者階級の闘争でしか解決できないと考えます。

労働大学企画編集委員 飯田 邦雄